

日本社会科教育学会

第69回全国研究大会（新潟大会）プログラム

大会主題 新潟から社会科・社会系教科の未来を拓く！

期 日 2019年9月14日（土）・15日（日） ※関連行事は13日（金）

会 場 新潟大学教育学部（〒950-2181 新潟県新潟市西区五十嵐二の町 8050）

主 催 日本社会科教育学会 日本教育大学協会全国社会科部門

後 援 新潟県教育委員会 新潟市教育委員会
 新潟県小学校教育研究会 新潟市小学校教育研究会 新潟県中学校教育研究会
 新潟市中学校教育研究協議会 新潟県高等学校教育研究会地理歴史・公民部会
 新潟大学教育学部 新潟大学大学院教育実践学研究科（教職大学院）
 新潟大学教育学部附属新潟小学校 新潟大学教育学部附属新潟中学校
 新潟大学教育学部附属長岡小学校 新潟大学教育学部附属長岡中学校
 新潟大学教育学部同窓会

日 程 *第1日目・第2日目の受付開始時刻・自由研究発表Ⅰ・Ⅱの開始時刻が変更となりました

第1日目 2019年9月14日（土）

8:45	9:45	12:15	14:00	16:45	17:00	18:00	18:10	19:50
受付	自由研究発表Ⅰ	昼食 ※Ⅰ 評議員会 (大会議室)	シンポジウム (大講義室)		総会 (大講義室)	移動	懇親会 (生協第一学生食堂)	

※Ⅰ 大講義室で 12:15～13:45 に特別企画「日中韓の教師・研究者・院生・留学生による授業研究交流」を開催します。テレビ会議システムを用いて、中国・北京師範大学惠州附属学校の授業をライブで公開します。その授業を参観し、授業について語り合い、国際的な授業研究・教育研究のネットワークを共に創り上げましょう。

第2日目 2019年9月15日（日）

9:00	9:45	12:15	13:15	15:45
受付	自由研究発表Ⅱ	昼食	課題研究発表	

関連行事

公開授業（課題研究Ⅰと連携）

テーマ 小・中・高校で育む社会的な見方・考え方（課題研究Ⅰに続く）

日 時 2019年9月13日（金）10：55～15：45

授業① 新潟県立新潟高等学校 鈴木 健一

会場：新潟県立新潟高等学校（新潟市中央区関屋下川原町2-635 025-266-2131）

時間：10時55分～11時50分 ※終了後、貸し切りバスで白新中学校へ移動（参加予約済の人）

授業② 新潟市立白新中学校 小林 大介

会場：新潟市立白新中学校（新潟市中央区川岸町2丁目4番地 025-266-2136）

時間：13時20分～14時10分 ※終了後、貸し切りバスで附属新潟小学校へ移動（参加予約済の人）

授業③ 新潟大学教育学部附属新潟小学校 八幡 昌樹

会場：新潟大学教育学部附属新潟小学校（新潟市中央区西大畑町5214 025-223-8321）

時間：15時00分～15時45分 ※終了後、解散

自由研究発表 I—第 1 分科会 (B 102 講義室)

司会者 茨城大学 木村 勝彦
宇都宮大学 熊田 禎介

- (1) 1930 年代後半『南洋群島国語読本』にみる地理教材について
—特に「群島地理」に注目して—

中央大学非常勤講師 小林 茂子

- (2) 戦後社会科成立期における日韓の歴史教育理論の比較教科教育史的研究
—歴史教育研究会の創設と『歴史教育』の創刊に着目して—

兵庫教育大学 福田 喜彦

- (3) 天皇の人間宣言の社会科教育的意義について

聖徳大学 小田桐 忍

- (4) 1946 年度文部省教科書局指定実験学校における公民教育研究の特質
—道徳生活指導との関わりに着目して—

信州大学 篠崎 正典

- (5) 高等学校「政治・経済」の成立と高校社会科教師
—東京都社会科教育研究会の活動を事例として—

慶應義塾大学 太田 正行

自由研究発表 I—第 2 分科会 (B 103 講義室)

司会者 早稲田大学 池 俊介
目白大学 田尻 信壹

- (1) 中学校社会科教育における「深い学び」の実践
—「世界遺産としての富士山」の教材化を通じて—

早稲田大学 長谷川真行

- (2) 大学、附属小学校、県の連携・協力による地域の新世界遺産の教材化
—单元「長崎市の発展に尽くした人々〜ド・ロ神父と潜伏キリシタン関連遺産〜」の開発と実践—

長崎大学 土肥大次郎
長崎大学教育学部附属小学校 安田 一義

- (3) 地域における継承的アーカイブと学習材としての活用
—「館山歴史公園都市」構想と「館山まるごと博物館」を事例として—

秋田大学 外池 智

- (4) 歴史観光素材を活用した地域教育のあり方をめぐって

東洋大学 須賀 忠芳

- (5) 小中社会科内容にもっと産業としての観光業を
—地域資源の活用と多角的思考を育む学び—

玉川大学 寺本 潔

自由研究発表Ⅰ—第3分科会 (B104 講義室)

司会者 鳴門教育大学 梅津 正美
東京学芸大学 日高 智彦

- (1) 高校世界史における歴史的エンパシーを働かせる「問い」の構築方法に関する研究と実践
愛知県立日進西高等学校 野々山 新
- (2) 高校世界史教育における歴史的エンパシーの育成
—移民へのまなざしの変化を例に—
愛知教育大学大学院・愛知県立津島東高等学校 杉浦 美香
- (3) 北方世界の国際関係から国民国家史観を相対化させる高等学校日本史の授業開発研究
青森県総合学校教育センター 金子 勇太
- (4) 「アジアの港」・「短歌づくり」の視点と、アクティブラーニングの手法を取り入れた授業開発に関する一考察
—教員養成大学における「外国史演習」の授業実践を中心に—
常磐会学園大学 井上 敏孝
- (5) 大学教養科目における高大接続講義の実践
—地域課題解決・文理融合・反転学習・英語活用—
新潟大学非常勤講師 竹田 和夫

自由研究発表Ⅰ—第4分科会 (B105 講義室)

司会者 静岡大学 磯山 恭子
立命館大学 森田 真樹

- (1) 高校3年生の政治意識とメディア接触について
—4年間の政治知識・意識調査から—
上宮高等学校 田中 智和
- (2) 法的推論に基づく主権者教育の学習理論に関する一考察
上越教育大学 中平 一義
- (3) 大学生における政治的リテラシーの構造
信州大学 松本 康
- (4) 政治的リテラシーを育むための教師の役割
—大学授業「法学」におけるディベート実践を例に—
日本大学薬学部講師 平野 節子
- (5) 新科目「公共」の学問知と教師の専門性
—大学教育課程の参照基準から市民性教育と学問知の関係を探る—
静岡大学 村井 大介

自由研究発表Ⅰ―第5分科会（B106 講義室）

司会者 愛知教育大学 真島 聖子
青山学院大学 水山 光春

（1）小学校社会科における経済的思考をどう育成するか

仙台白百合女子大学 呂 光暁

（2）小学校教員の金融・経済教育に関する意識と課題

―長野県内の小学校教員に対する調査結果の分析を手がかりとして―

信州大学 田村 徳至

（3）社会科におけるESDの現状と課題

高千穂大学 鈴木 隆弘

（4）主権者の育成をめざす租税・財政学習の授業開発

―国債の累積問題を事例にして―

熊本大学 藤瀬 泰司

（5）日本の中等学校社会科成立期における判断力・批判力の位置づけとその特質

―職業・労働に関する内容の場合―

新潟大学 釜本 健司

自由研究発表Ⅰ―第6分科会（B107 講義室）

司会者 東海学園大学 原 宏史
筑波大学附属駒場中・高等学校 山本 智也

（1）社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力を養う単元開発

―ダークツーリズム的思考からみた平和学習―

守谷市立御所ヶ丘中学校 土屋 啓一

（2）平和を創造する主体形成につながる平和教育

―平和を創造する主体に必要な資質・能力の分析―

千葉大学大学院 宮本 一輝

（3）子どもが現実と向き合う平和教育

―『へいわってすてきだね』を教材にして―

山形市立第六中学校 伊藤 直貴

（4）「構造的暴力」の視点に立った公民科教材の開発原理

―原発事故を中心とした公害問題の授業開発に向けて―

筑波大学大学院・茗溪学園中学校高等学校 前嶋 匠

（5）加害からの平和教育（2）

都留文科大学 西尾 理

自由研究発表Ⅰ—第7分科会（大会議室）

司会者 横浜国立大学 重松 克也
宮崎大学 吉村功太郎

- (1) IBMYP におけるユニットプランナーの意義
—社会科学習指導案の構成要素との比較検討を通して—

中央大学大学院 津山 直樹

- (2) 当事者性と社会認識の理論的検討

四日市市教育委員会 井川 和道

- (3) 生徒発の疑問から始まる探究的授業
—授業のコペルニクスの転回—

首都大学東京 風巻 浩

- (4) 役割体験学習論に基づくアクティブラーニング
—仮想現実空間における社会科学習の構想—

北海道教育大学 井門 正美
新十津川町立新十津川中学校 武田 竜太
北海道教育大学附属札幌小学校 河原 秀樹
北海道教育大学教職大学院 井戸川彰吾

- (5) 「主体的・対話的で深い学び」の実存論的検討
—世界内存在の主体性・共同性・真理性—

佐賀大学 佐長 健司

自由研究発表Ⅰ—第8分科会（B201 講義室）

司会者 筑波大学附属小学校 梅澤 真一
香川大学 鈴木 正行

- (1) 戦後日本の歴史から「豊かさ」を考える授業実践
—小・中・高の連携による単元開発—

静岡県袋井市立袋井中学校 高橋 壮臣
静岡県焼津市立大井川中学校 塩原 康裕
埼玉県越谷市立東越谷小学校 石須 雄志

- (2) AI を活用した白黒写真のカラー化をトリガーとした身近な歴史学習の実践と分析

東京大学 大井 将生
東京学芸大学附属竹早小学校 宮田 諭志

- (3) 「地域の発展につくした先人」の教材化の考え方
—大友亀太郎を取り上げて—

北海道教育大学岩見沢校 田山 修三

- (4) 小学校社会科カリキュラムにおける「日本の歴史」の位置付けとあり方に関する考察

神戸女子大学 佐藤 浩樹

- (5) 「探究の対話」のワークショップ型授業と社会科歴史で育成する資質・能力

山形大学 江間 史明

自由研究発表Ⅰ—第9分科会 (B 202 講義室)

司会者 立正大学 石橋 昌雄

帝京大学 鎌田 和宏

- (1) 社会との関わり強く意識して学ぶ社会科学習の在り方

—身近な自然環境の未来を選択・判断する場面を取り入れて—

浦安市立日の出小学校 柳 圭一

- (2) 私たちの生活と工業生産

—第5学年工業生産の継続と研究開発—

香川県宇多津町立宇多津小学校 河野 富男

- (3) よりよい社会へ向けた小学校社会科授業の教材開発

さいたま市立川通小学校 須賀 知宏

- (4) 「見方・考え方」を鍛えるための小学校社会科授業内容

—リヴォイシングを活用して行う大学の模擬授業を事例として—

武庫川女子大学 本多 千明

大阪教育大学 奥田修一郎

- (5) 360度映像を活用した社会見学のコンテンツについて

情報通信研究機構 今井 弘二

情報通信研究機構 村山 泰啓

自由研究発表Ⅰ—第10分科会 (B 203 講義室)

司会者 白百合女子大学 神永 典郎

広島大学附属三原小学校 神野 幸隆

- (1) 児童に問いと見通しをもたせる学習課題設定の工夫

—社会的事象の見方・考え方を働かせ、主体的に追究する姿を目指して—

新潟市立沼垂小学校 裏田 雄大

- (2) 具体的事実を基に思考したり、既習事項を活用したりして、知識を概念化して捉える子どもの育成

新潟市立新潟小学校 小黒 健太

- (3) 小学校社会科における未来思考を身につける授業実践

愛知県西尾市立一色中部小学校 伊澤 直人

- (4) 多角的なものの見方を育成するアナザーストーリーの社会科授業

—「国際貢献から国際協力へ」JICAのストーリーとマザーハウスのアナザーストーリー—

筑波大学附属小学校 粕谷 昌良

(5) 学んだことを社会や生活に生かす社会科学習過程のあり方

—「単元を見通す学習問題」「本気の学習問題」により、問いの質を高め、知識の概念的な理解を実現する学びの姿—

横浜市立西富岡小学校 西川 健二
横浜市立瀬ヶ崎小学校 梅田比奈子
横浜市立幸ヶ谷小学校 宗像 北斗
横浜市立戸部小学校 武藤由希子
横浜市立平沼小学校 石川 和之
横浜市立西富岡小学校 馬場 将来

自由研究発表Ⅰ—第Ⅱ分科会 (B 204 講義室)

司会者 お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝
東北学院大学 坪田 益美

(1) 社会科におけるグローバル・シティズンシップの育成

—小学校社会科の人間の安全保障に関する授業の分析を通じて—

静岡大学大学院 石川 晃啓

(2) 社会の重層性を意識した小学校社会科授業実践 (2)

浦安市立美浜北小学校 中谷 佳子

(3) 持続可能な社会の創り手に求められる態度に関する考察

—第6学年「グローバル化する世界と日本の役割」の実践を通して—

大和郡山市立郡山西小学校 島 俊彦

(4) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

—系統的な学習から考える、グローバル化した社会を捉える子供の姿—

府中市立府中第四小学校 向井隆一郎
小金井市教育委員会 田村 忍

(5) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習

—社会科と総合的な学習の時間を関連付けた全体計画の作成—

越谷市立東越谷小学校 石須 雄志
越谷市立東越谷小学校 小野 優
埼玉県教育局東部教育事務所 長谷川裕晃

自由研究発表Ⅰ—第12分科会 (B 205 講義室)

司会者 横浜国立大学 鈴木 允
京都文教大学 橋本 祥夫

- (1) 拡張的な学びをつくる越境的社会科授業の開発研究
—小学校第4学年「安心・安全な町づくりプロジェクト」の実践を中心に—
佐賀大学教職大学院 江口 敦子
- (2) 社会参画意欲の醸成を目指した小学校社会科授業の探究
—地域教材の活用を手立てとして—
長岡市立日越小学校 星 雄馬
- (3) 市の様子の移り変わりを捉えるための一考察
—地域の変遷を読み解く活動が歴史的な見方・考え方を育む—
札幌市立米里小学校 佐々木英明
- (4) 小学校高学年において「身近な地域認識」を深める授業に関する研究
—身近な地域素材と第5学年の学習内容とのつながりから—
福島県いわき市立小名浜東小学校 久野 雄平
- (5) 地域教材を活用した小学校社会科における防災教育
—第5学年「学校・学区の歴史から学ぶ防災学習」を例に—
愛知教育大学附属名古屋小学校 松本 卓也
愛知東邦大学 白井 克尚

自由研究発表Ⅰ—第13分科会 (B 304 講義室)

司会者 愛媛大学 井上 昌善
福島大学 初澤 敏生

- (1) 戦後直後の埼玉県川口市の社会科地域教育計画が、現在の社会科教育にもたらすもの(1)
—地元紙における川口の教育の記述を中心に—
放送大学大学院・埼玉県越谷市立西方小学校 中山 正則
- (2) 子どもの問いを生かした単元デザイン
—小学校第3学年「生産」と「販売」の学習における単元配列及び単元展開についての考察—
広野町教育委員会 渡邊 智幸
- (3) 中山間地域での社会科実践は何をもたらしたか
—「糸魚川」と「山古志」における「生徒」の現在地から—
糸井川市立糸魚川東中学校 関 拓也
- (4) 地域課題解決学習と高校生の投票率
—2019年選挙を例として—
明治大学 藤井 剛

(5) 地方創生のための社会科カリキュラム

三重大学名誉教授 山根 栄次

自由研究発表Ⅰ—第14分科会 (B 305 講義室)

司会者 広島大学 棚橋 健治
東京大学 堀田 諭

(1) アクション・リサーチに基づく小学校社会科授業づくりの実践報告
—教師と研究者による協同のプロセスに焦点を当てて—

神戸大学研究員 馬場 智和

(2) 教職大学院授業観察演習における協働リフレクションの事例的研究

上越教育大学 大島 崇行
上越教育大学 榊原 範久
西尾市立平坂中学校 杉山 立

(3) 社会系教員志望学生は講義「社会科教育法」のどこにレリバンスを見出したか
—再生刺激法を通したA教育大学大学生の自己報告をもとに—

広島大学大学院 小栗 優貴
愛知教育大学大学院 中山 智貴

(4) 学生の社会科・地歴科教育(授業)観をいかにして刷新(改良)させるか

国士舘大学客員教授 加藤 公明

(5) 社会科教育研究の過去・現在・未来
—修士課程から教職大学院重点化への移行—

鳴門教育大学 西村 公孝

昼 食

12:15~14:00

大会参加(事前登録)申込フォームで申し込まれ、振込が完了された方には、弁当を午前11時から大会受付付近にてお渡しします。大会領収書を持参ください。また昼食場所は、会員控室や講義室をご利用下さい。

評議員会 (A棟2階 大会議室)

12:15~14:00

特別企画 日中韓の教師・研究者・院生による授業研究交流 (大講義室)

12:15~13:45

コメンテーター 北京師範大学珠海分校 呉 忠魁
惠州附属学校 謝 承志

テレビ会議システムを用いて、中国・北京師範大学惠州附属学校の授業をライブで公開します。その授業を参観し、授業について語り合い、国際的な授業研究・教育研究のネットワークを共に創り上げましょう。

テーマ 社会科の実践者・研究者は子どもの学び、その成長をどのように捉えるのか？

〔趣旨〕

前回1995年第45回新潟大会では、「教師は、何をどう教えるか」という目標・内容論、教師の視点から、社会科授業の在り方を検討しました。今回は、「子どもは社会科を通して何を学び、どのように成長・変容しているのか、そしてその子どもの学びを実践者・研究者はどのような観点・方法で捉えているのか」という評価論、子ども・教師の視点から、社会科授業研究の在り方を考えることにしました。新学習指導要領では、子どもが社会科の学習を通して、社会の形成者・主権者となる資質・能力を身に付けるように育むことが課題として投げ掛けられています。「教えたはず」ではなく、子どもは社会科の授業を通して、どのような力を、どのように身に付けて成長しているのか、その事実を実践者・研究者はどのような観点から、どのような子どもの姿に基づいて、どのような時間的スケールで捉えようとしているのか。異なるアプローチをとる実践者・研究者の議論を手がかりにして、私たちの子どもを観る眼、授業実践を捉え評価する眼を豊かにしたいと考えます。

コーディネーター 筑波大学 唐木 清志
新潟大学 宮園 衛

シンポジスト・テーマ

- (1) 小学校社会科における社会に開かれた授業への改善
—社会への関心を高める授業の充実に向けて—

新潟市立総合教育センター 大矢 和憲

- (2) 授業におけるコミュニケーションに見る子どもの学び
—社会科教育への視座として—

新潟大学 一柳 智紀

- (3) 社会文化的アプローチは社会科教育研究を変えるか？
—米国社会科教育研究に押し寄せた質的研究革命を中心に—

東京学芸大学 渡部 竜也

- (4) 奈良女子大附属小の「学習指導」がどのようにそれを「しごと」にし子ども達を成長させていくか
—板書・日記・授業記録を4年6ヶ月追って分かったこと—

宇都宮大学 溜池 善裕

司会者 山梨大学 後藤 賢次郎
鹿児島大学 溝口 和宏

- (1) 現代社会を歴史的に考えるための授業設計
—Historical Thinking PROJECT に着目して—

東京大学大学院 星 瑞希
東京学芸大学大学院 小野 創太
東京大学大学院 松村 一太郎
筑波大学大学院 渡邊 和彦

- (2) 「ミュンヘン・アナロジー」の現代史的展開
—世界史および政治経済両領域の汎用的な教材開発—

早稲田大学 遠藤 紳一郎

- (3) AP 世界史における歴史的思考スキル
—単元：“An Industrializing Age (工業化の時代)” を事例として—

目白大学 田尻 信壹

- (4) 社会科カリキュラムスタンダードにおける内容表明の意義と課題
—ナル・カリキュラムを視点として—

東京大学 堀田 諭

- (5) 1970 年前後イギリスにおける社会系カリキュラム開発と「社会科」創設運動

上越教育大学 志村 喬

司会者 常盤大学 大高 皇
日本女子大学 田部 俊充

- (1) 「環境的正義」を中核としたエコロジカル・シティズンシップの育成
—ニュージーランドにおける初等社会科プログラムの分析を通して—

東京学芸大学大学院 押井 那歩

- (2) アメリカ社会科における「物語」を活用した地理教育の位置と方法
—読み物教材を使った地図学習の分析を通して—

筑波大学大学院 早瀬 博典

- (3) フィンランドにおける教員養成制度と地理教育
—東フィンランド大学を例に—

福岡女子大学 湯田ミノリ

- (4) 地図を用いた小学校社会科防災教育の実践
—自然災害の地理的条件に着目して—

宮城教育大学附属小学校 前田かおり
宮城教育大学 吉田 剛

- (5) 初等地理カリキュラムの系統性に関する研究
—イギリス初等地理教科書にみる学習過程の分析—

宮城教育大学 吉田 剛
仙台市立北中山小学校 石川じゅん

自由研究発表Ⅱ—第3分科会 (B104 講義室)

司会者 筑波大学附属小学校 粕谷 昌良
仙台白百合女子大学 呂 光暁

- (1) 小学校社会科における「林業」の教材化に関する一考察
～森林環境税をめぐるESDの実践として～

所沢市立宮前小学校・早稲田大学大学院 木下 智実

- (2) 我が国の食料生産に関する不十分な認識とその修正

八王子市立いずみの森小中学校第六小学校 北川 大樹

- (3) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発
＝再起をかけた「黒まいたけ」＝

立正大学 石橋 昌雄
東京都中野区立谷戸小学校 丸野 陽子
東京都板橋区立板橋第十小学校 吉田 隆志
東京都板橋区立金沢小学校 大塚 夏海
東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 石嶺 匡
東京都北区立滝野川第二小学校 峯 眞子

- (4) 日本の技術を生かした「ものづくり」に関するカリキュラム開発
＝オーダーで作る医療ばさみ＝

東京都清瀬市立清瀬第三小学校 川久保好子
東京都板橋区立板橋第八小学校 成田香穂里
東京都板橋区立板橋第十小学校 下采 紅葉
東京都板橋区立金沢小学校 船田 悠華
東京都板橋区立成増ヶ丘小学校 寺尾 和希

- (5) 子どもの「問い」を重視した「時間的な認識」に関する指導
—第三学年「板橋区の様子のおつりかわり」の学習を通して—

東京都中野区立谷戸小学校 丸野 陽子
立正大学 石橋 昌雄

自由研究発表Ⅱ—第4分科会 (B105 講義室)

司会者 神戸女子大学 佐藤 浩樹
千葉大学 竹内 裕一

- (1) 「廃棄物の処理」単元におけるESDの授業作り
—初等社会科のESD単元を探って—

柏崎市立半田小学校 宮下 祐治

- (2) 「社会的事象の特色や相互の関連、意味」を考える学習
—4年「飲料水」の実践を通して—

多摩市教育委員会 池田 豊一
檜原村立檜原小学校 山田 剛史
江戸川区立西葛西小学校 秋吉かおり
東京都教育庁指導部 辻 慎二

- (3) 小学校社会科における学校放送番組の活用についての一考察
—児童が主体的に自分の考えを表現できる活動を目指して—

杉並区立天沼小学校 新宅 直人
北陸学院大学 村井万寿夫
放送大学 中川 一史

- (4) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習
—第3学年「豊島区の様子と人々の暮らしの移り変わり」の実践を通して—

東京都教育庁指導部 秋田 博昭
東京都教育庁指導部 生沼 夏郎

- (5) グローバル化した社会を学ぶ小学校社会科学習
—第4学年「くらしをささえるガス」の実践を通して—

東京都教育庁指導部 辻 慎二
杉並区立天沼小学校 新宅 直人

自由研究発表Ⅱ—第5分科会 (B106 講義室)

司会者 筑波大学附属視覚特別支援学校中学・高等部 丹治 達義
上越教育大学 中平 一義

- (1) 主権者意識を育む小学校社会科と総合的な学習の実践
—東北の人口減少社会との対峙を通して—

宮城教育大学附属小学校 三浦 秋司
宮城教育大学 吉田 剛

- (2) 小学校段階における民主主義教育の実践とその効果について
～模擬投票の要素を含むアニメーション動画を用いて～

弘前大学 蒔田 純

- (3) 地域経済の活性化の視点から持続可能な社会を考える小学校社会科政治学習
—EIMY概念に基づく電気エネルギーの地産地消に着目して—

三重大学 永田 成文
四日市市立泊山小学校 萩原 浩司

- (4) 社会科の学習に困難を抱える児童も参加できる食料生産の学習における一考察
—どの子にも社会科での学びを—

札幌市立平岡中央小学校 伊藤健太郎

- (5) 授業のユニバーサルデザインを活用した小学校社会科の非連続型テキスト読み取り場面における支援の効果

—第6学年歴史単元の導入場面における提示方法の工夫—

江東区立明治小学校 高橋 洋之

自由研究発表Ⅱ—第6分科会 (B107 講義室)

司会者 玉川大学 寺本 潔
信州大学 松本 康

- (1) 小学校第3学年における社会科授業の構成
—単元「学校のまわりと区の様子」を中心に—

新宿区立四谷小学校 柳沼 麻美

- (2) 社会科入門期の地図学習
—第3学年「学校の周りを調べよう」の実践を通して—

柏崎市立大洲小学校 栗田 明典

- (3) 生活科における市民性の育成
—「信頼」に着目して—

東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 齊藤 和貴

- (4) 価値判断力や意思決定力を育成する社会科授業の開発
—「塩地蔵」について社会的な見方を働かせて判断する小学校1年生と3年生の授業を通して—

筑波大学附属小学校 梅澤 真一

- (5) 低学年の論争問題学習の構成
—子どもの生活問題を事例として—

お茶の水女子大学附属小学校 岩坂 尚史

自由研究発表Ⅱ—第7分科会 (大会議室)

司会者 静岡大学 村井 大介
三重大学名誉教授 山根 栄次

- (1) 比較から問いを生む小学校社会科学習
—第4学年「地域の資源を生かすまち」の実践を通して—

北海道教育大学附属札幌小学校 河原 秀樹

- (2) 子どもの発想を生かし、社会的な見方・考え方を育てるユーモア思考
—有田和正実践の分析を通して—

岡崎市立六名小学校 恒川 徹

(3) 子どもを中心に据えた授業研究を通した教師の力量形成過程に関する研究

—富山市立堀川小学校政二亮介のライフストーリー的アプローチ—

北海道教育大学旭川校大学院・滝上町立滝上中学校 高橋 純一
北海道教育大学旭川校 坂井 誠亮

(4) 「見方・考え方」を働かせる社会科授業づくり

—追究の視点を踏まえた「問い」と教材を中心に—

小金井市教育委員会 田村 忍
横浜市立西富岡小学校 西川 健二
八王子市立散田小学校 島田 学
横浜市立平沼小学校 石川 和之
一宮町立東東浪見小学校 古内 忠広
横浜市立西富岡小学校 馬場 将来

(5) 奈良女子大学附属小の「しごと」と「学習指導」

—学習の方法を指導する「学習指導」はどう検討されてきたか—

宇都宮大学 溜池 善裕
奈良女子大学附属小学校 薄田 太一

自由研究発表Ⅱ—第8分科会 (B 201 講義室)

司会者 信州大学 篠崎 正典
玉川大学 宮本 英征

(1) 児童が自らの学習状況を把握し、主体的に追究するための単元設計

大田区教育委員会 木下健太郎
江東区越中島中学校 沢畑 慶介
東京都教育委員会 児玉 大祐
北区立豊川小学校 村松 良臣
新宿区教育委員会 北中 啓勝
東京都教育委員会 岩森 一哉

(2) 「主体的に学習に取り組む態度」を明らかにするための研究

～小学校第六学年における児童の学習の「振り返り」の分析を通して～

東京都教職員研修センター 山崎 禎久
新宿区立市谷小学校 増田 義久
新宿区立西戸山小学校 上島 響
北区立王子小学校 樋口のぞみ
横浜市立横浜市立幸ヶ谷小学校 宗像 北斗
江東区立明治小学校 高橋 洋之

(3) 小学校社会科における資料読解のためのワークシートの開発

東北学院大学 佐藤 正寿
株式会社教育同人社 山田 智之
株式会社教育同人社 徳本 恭子

(4) 初等教育における思考力活用度と市民意識の評価

—マンガ分析を通じて—

筑波大学大学院 MENA ARAYA AARON ELI

- (5) 教育的鑑識眼を学びの評価に適用する際の実践的課題
—鑑識眼的評価の本質から問い直す—

お茶の水女子大学附属小学校 岡田 泰孝

自由研究発表Ⅱ—第9分科会 (B 202 講義室)

司会者 桜美林大学 田中 暁龍
玉川大学 樋口 雅夫

- (1) 個の学びを深める手立ての工夫
—1枚ポートフォリオの活用を通して—

新潟市立東新潟中学校 山貝 洋輔

- (2) 生徒の日常世界に着目した中学校社会科授業
—AI世代の教育を見据えて—

神奈川県藤沢市立湘南台中学校 黒木 俊治

- (3) 思考過程におけるICTの効果的な活用
—中学校社会科の授業実践を通して—

千葉大学教育学部附属中学校 五十嵐 辰博

- (4) デザイン思考に基づく社会科授業開発に関する基礎的研究
—ダブルダイヤモンド・モデル構造の視点から—

香川大学 鈴木 正行

- (5) 社会科パフォーマンス課題の真正性
—カリキュラム・マネジメントの核として—

福岡教育大学 豊畠 啓司
福岡教育大学附属小倉中学校 柴田 康弘

自由研究発表Ⅱ—第10分科会 (B 203 講義室)

司会者 慶應義塾大学 太田 正行
都留文科大学 西尾 理

- (1) 高等学校の主権者教育における責任の見方・考え方の形成
—政策に関する学習の授業の分析を通じて—

静岡大学大学院 平井 誠也

- (2) 高校倫理にみられる文化的ナショナル・アイデンティティ表象の変化
—教科書分析を中心に—

上越教育大学大学院 岡崎 優作

- (3) 高等学校公民科におけるトールミン・モデルを活用した知識構成型ジグソー法による授業
—現代社会「生命倫理をめぐる問題～新型出生前診断～」の指導を通じて—

新潟県立正徳館高等学校 小林 真也

- (4) 「対話すること」を探究する高等学校「倫理」における授業実践
 —プラトン対話篇『ゴルギアス』（452E-458B, 508B-511A）を教材として—
 北海道高等学校「倫理」「現代社会」研究会・北海道岩見沢東高等学校 佐藤 克宣

- (5) 新学習指導要領と高等学校倫理の「人間として在り方生き方」教育
 —「人間として在り方生き方」についての思索を深める授業の構築に向けて—
 東海学園大学 原 宏史

自由研究発表Ⅱ—第Ⅰ分科会（B 204 講義室）

司会者 教職員支援機構次世代型教育推進センター 大杉 昭英
 明治大学 藤井 剛

- (1) 子どもの見方・考え方をひろげる主権者教育の授業開発
 上越教育大学大学院 天野 雅英

- (2) 地方選挙の課題を体験的に理解するゲーム教材の開発
 筑波大学大学院 吉見 依里
 筑波大学大学院 大脇 和志
 筑波大学大学院 須藤 隆也
 筑波大学大学院 小室嘉奈子

- (3) まだ生まれていない子どもたちの主張を考える授業
 —人はあまりにも長い時間軸を含んだ政策選択をどのように考えるのか—
 神奈川県立三浦初声高等学校 金子 幹夫

- (4) 二つのアプローチから迫る主権者教育
 —生徒は論理と情念のどちらを選んだか—
 上智大学 新井 明

- (5) 主権者意識を醸成する教育プログラムに関する一考察
 —NPO 法人 NEXT CONEXION の取り組みを事例として—
 愛媛大学 井上 昌善
 NPO 法人 NEXT CONEXION 越智 大貴

自由研究発表Ⅱ—第Ⅱ分科会（B 205 講義室）

司会者 長崎大学 土肥大次郎
 兵庫教育大学 福田 喜彦

- (1) 市民社会への正統的周辺参加としての二人称的アプローチの授業開発研究
 —中学校第3学年「オスプレイ配備問題」の授業実践を事例として—
 佐賀大学大学院 北村 知寛

- (2) フィールドワークを通して『原発とどう向き合うか』について対話する
 —学際的単元（社会科+理科）の新たな挑戦—
 帝京大学 古家 正暢

- (3) 中学校公民的分野「よりよい社会を目指して」の単元開発
 —SDGs 未来都市に選定された「富山市コンパクトシティ政策」を例に—
 富山大学人間発達科学部附属中学校 坂田 元丈

- (4) 労働問題に着目した中学校公民的分野の授業開発
—新しい働き方を実現するための手がかりに—

大阪教育大学 奥田修一郎

- (5) 主権者として課題を主体的に解決しようとする生徒の育成

東京都中央区立銀座中学校 種藤 博

東京都葛飾区立亀有中学校 詰田 剛也

自由研究発表Ⅱ—第13分科会 (B 304 講義室)

司会者 岩手大学 今野日出晴

帝京大学 野口 剛

- (1) 日本古代における中央集権国家形成の教材開発

大田区立大森第二中学校 齋藤 琴音

- (2) 奈良時代の良民か奴隷になって中学生が日記を書く
—「歴史日記」の実践—

新潟市立石山中学校 小林 朗

- (3) 批判的思考力を育成する人物学習の授業構成論
—「上杉謙信」の人物像を吟味・検討する授業の開発を通して—

新潟市立上山中学校 早福 史

- (4) 未来を切り拓く力を養う社会科授業2
—イギリス産業革命からAI時代を考える—

南魚沼市立八海中学校 仙田 健一

- (5) 資料活用における批判的思考を育成する思考ツールの開発と評価
—中学校社会科「日清・日露戦争と東アジアの動き」の実践を通して—

上越教育大学 神原 範久

西尾市立平坂中学校 杉山 立

上越教育大学 大島 崇行

自由研究発表Ⅱ—第14分科会 (B 305 講義室)

司会者 国士舘大学客員教授 加藤 公明

弘前大学 篠塚 明彦

- (1) 生徒が問いを表現する授業の模索
—歴史総合を見据えて—

埼玉県立与野高等学校 武井 寛太

- (2) 現代社会理解のための高等学校歴史教育の一考察
—文化財・文化遺産を題材とした歴史総合単元開発を通して—

千葉県立千葉工業高等学校・千葉大学大学院教育学研究科 松井 昂

(3) 「開発」と「公害」を巡る歴史と認識を問う授業構成

神奈川学園中学高等学校 小川 輝光

(4) 水俣病事件史に学ぶ歴史教育の視座(1)

—近代化、植民地支配、大衆化を問う視点と理論的整理—

大東学園高等学校 齊藤 征俊

浦安市立明海小学校 板垣 雅則

開智国際大学 坂井 俊樹

東京学芸大学附属世田谷小学校 宮田 浩行

伊勢原市立桜台小学校 井山 貴代

(5) 水俣病事件史に学ぶ歴史教育の視座(2)

—近代化、植民地支配、大衆化を問う視点と諸実践—

東京学芸大学附属世田谷小学校 宮田 浩行

伊勢原市立桜台小学校 井山 貴代

開智国際大学 坂井 俊樹

昼 食

12:15~13:15

大会参加(事前登録)申込フォームで申し込まれ、振込が完了された方には、弁当を午前 11 時から大会受付付近にてお渡しします。大会領収書を持参ください。また昼食場所は、会員控室や講義室をご利用下さい。

I 社会的な見方・考え方を育む小中高一貫の社会科授業の在り方を探る (大講義室)

[趣旨]

新しい学習指導要領では、小・中・高を一貫する社会的な見方・考え方が示されました。関連行事として9月13日(金)に教育学部附属新潟小学校、新潟市立白新中学校、新潟県立新潟高等学校で公開する授業では、「小・中・高校で育む社会的な見方・考え方」という共通テーマを設定し、各校種で授業を構成し実践します。本課題研究では、各授業を概観した後、各実践担当者が目指した「社会的な見方・考え方」の育成について、ラウンドテーブル形式で参加者と共に検討をおこなっていきます。

コーディネーター 新潟大学 田中 一裕
新潟市立白新中学校 倉澤 秀典
新潟市立亀田小学校 津野 治彦

(1) 自分の生活と外国との関わりを追究し、社会的事象の特色を考える授業

—地域に見られる販売の仕事の実践を通して—

新潟大学教育学部附属新潟小学校 八幡 昌樹

(2) 地理的な見方・考え方を働かせ、資料を読み取る技能を身に付ける授業

—世界各地の人々の生活と環境の中項目の実践を通して—

新潟市立白新中学校 小林 大介

(3) 資料の読み解きによる多面的・多角的な考察を行う学習

—「16～17世紀の銀を中心とする世界の一体化」の実践を通して—

新潟県立新潟高等学校 鈴木 健一

II 日中韓の研究者と共にグローバル時代の社会科教育の役割と展望を探る

～多様性と共生をキーワードに～ (大会議室)

[趣旨]

前回の奈良大会のテーマを引き継ぎつつ、「多様性と共生」の思想を基に、グローバル化する現代社会の中での、市民的資質育成のための社会科教育の在り方を議論します。多様な価値観やアイデンティティを前提として多様性を尊重し、共生の生き方の作法を社会科でどのようにして育むのか、日中韓の研究者が共に検討を行います。なお、この課題研究は、ISSA(国際社会科教育学会)との共同企画として実施されます。(※中国・韓国側の発表には、通訳が付きます)

コーディネーター 埼玉大学 桐谷 正信
大阪教育大学 峯 明秀
コメンテーター 新潟大学 向山 恭一

(1) 中国における多文化教育の実践と課題—北京師範大学南奥実験学校の実践を事例として—

中国中小学多元文化教育の理念与实践 —以北京师范大学南奥实验学校为例—

北京師範大学南奥実験学校 鄭 鉄軍
北京師範大学珠海分校 胡 学亮

(2) 言語の多様性とバイリンガル教育：韓国の状況に焦点を当てて

"Language Diversity and Bilingual Education: Focus on South Korean Context"

ソウル教育大学校 張 銀榮
コメンテーター ソウル教育大学校 南 景熙

- (3) 社会科における「多様性と共生」を考える日中韓共同研究および教材開発の試み
—「人の移動」「異己」「太平洋ディアスポラ」をキーワードに—

帝京大学 中山 京子

Ⅲ 社会的諸課題にアプローチする力を育むための 社会科カリキュラムの在り方を探る (B 204 講義室)

[趣旨]

社会の急激な変化に伴い、そこでの諸課題も複雑さを増しています。これからの社会に生き抜くうえでは、こうした複雑な社会の今日的諸課題を分析し、解決を図るというアプローチ力の育成が重要となります。社会の今日的諸課題を分析し、解決を図る能力の育成を学びの経験として保障する社会系教科カリキュラムの考え方、およびこうしたカリキュラムを実現するための条件整備について、学校教育現場や地域での取組と関わらせながら、検討します。

コーディネーター 新潟大学 釜本 健司
福井大学 橋本 康弘
コメンテーター 桐蔭横浜大学 谷田部玲生

- (1) 社会問題解決学習の理論と方法
—能力ベースによるカリキュラム設計—

福井大学 橋本 康弘

- (2) 法構想学習のカリキュラム
—「自動運転の法的責任」の授業分析から—

筑波大学附属駒場中・高等学校 小貫 篤

- (3) 社会科の「再政治化」に対応する社会科教師をいかに育てるか
—「社会系カリキュラムデザイン論」の試みを通して—

広島大学 川口 広美

Ⅳ 社会科におけるダイバーシティのこれからを考える (B 105 講義室)

[趣旨]

社会科教育を構想する上で、障がいのある児童生徒、外国人児童生徒、ジェンダーやLGBT等について考えることが、以前にも増して重要になってきています。本年3月、本学会員を対象に質問紙調査を行いました。その結果を報告するとともに、それを参考にして、社会科におけるダイバーシティのこれからについて、関連する授業実践に意欲的に取り組まれている発表者から、その実践経験を踏まえて提言していただくなどして、幅広く議論していきます。

コーディネーター 神奈川県横浜市立瀬ヶ崎小学校 梅田比奈子
東京学芸大学 荒井 正剛
コメンテーター 山形大学 高 吉嬉

- (1) ダイバーシティに関する学習についての授業実践の現状と課題
—「社会科におけるダイバーシティに関する質問紙調査」結果から—

東京学芸大学 荒井 正剛

- (2) 小学校社会科の実践と社会や子どもの「多様性」
—多文化教育の視点から—

共栄大学 太田 満

(3) ホリスティックな視点から多様性との関わり方を問う実践

愛知県豊田市立東保見小学校 幸田 隆

V 教職大学院における社会科教育の在り方と今後の展望 (B 205 講義室)

[趣旨]

現在、教員養成系大学院では、修士課程の教職大学院への段階的移行(教職大学院重点化)が推し進められています。その際、大きな課題となっているのが、教科教育を教職大学院の教育課程にいかに取り込むかという点です。学校の教育課程は個別教科によって構成されており、担当する教員には各教科の本質を深く理解し、教材開発や授業づくりを行う資質・能力が求められることは言うまでもありません。そこで、本年度は昨年度の課題研究Ⅴ「教員養成系大学院改革はこれでよいか」での議論を踏まえ、先行する教職大学院での社会科教育の教育課程、授業の実践についての報告を頂きながら、議論を深めていきたいと思います。

コーディネーター 上越教育大学 茨木 智志
東京学芸大学 川崎 誠司

(1) 上越教育大学教職大学院実習の取り組み

—教科教育の視点からの展望—

上越教育大学名誉教授 廣瀬 裕一

(2) 教職大学院における教科教育カリキュラムの検討

—山形大学教職大学院・教科教育高度化分野の場合—

山形大学 江間 史明
山形県教育委員会 高橋 実

(3) 教職大学院における社会科教育

—『理論と実践の往還』という理念と現実—

東京学芸大学 斎藤 一久

大会参加要項

1. 参加費

(1) 大会参加費

一般会員 : 3,000 円 (事前登録) 3,500 円 (当日受付)
学生・院生会員 : 2,500 円 (事前登録) 3,000 円 (当日受付)
非会員 : 3,500 円 (事前登録・当日受付)

(2) 懇親会参加費

会員・非会員 : 4,000 円 (事前登録) 4,500 円 (当日受付)

(3) 弁当代

第 1 日目のみまたは第 2 日目のみ : 800 円 両日 : 1,600 円 (事前登録者に限る)

弁当の引き渡しは、大会受付付近にて、両日とも午前 11 時から行います。大会領収書を持参ください。

(4) 大会参加、関連行事(授業参観)参加、懇親会参加および弁当の事前登録の延長について

【締め切り】 2019 年 8 月 26 日(月)

参加申込、及び参加費の振込の両方が完了した時点で事前登録完了となります。

弁当は事前登録が完了していない場合、ご用意できません。

(5) 事前登録のキャンセル等について

事前登録を完了された方の参加のキャンセルは、「編集・削除 URL」から 8 月 26 日(月)まで可能です。

事前登録を完了された方が、8 月 27 日(火)以後にキャンセルされた場合や、大会に参加できなかった場合は、後日、登録された住所に『大会発表論文集』を送付いたします。

2. 研究発表の準備について

(1) 自由研究発表の発表時間は、発表 20 分、質疑応答 10 分の計 30 分です。

(2) 発表資料を配布される場合、自由研究発表は 70 部以上、課題研究発表は 100 部以上、シンポジウムは 450 部以上をご用意のうえ、発表当日ご持参ください。なお、大会実行委員会宛の発表資料の送付はお断り致します。また、発表資料が足りなくなった場合、実行委員会での増し刷りもお断り致します。

(3) 発表会場には、プロジェクター、スクリーンが装備されています(パソコンは装備されていません。インターネット接続はできません。)パワーポイントを使用して発表される方は、ノートパソコンにデータを保存してご持参ください。自由研究発表の場合、第 1 日目・第 2 日目とも 9:30 までに発表会場に到着し、パソコンを接続しスライド・動画等が正しく動作するか確認をおすすめします(または、発表時間内にご自身で確認ください)。また、機械接続は発表時間内にしてください(接続ケーブルとして HDMI およびアナログ RGB を用意しています)。

3. 「関連行事」の参加申し込みについて

課題研究 I との関連行事として、公開授業を行います。ただし、参加者は事前に申し込まれた方に限定させていただきます。

4. 会期中の昼食(弁当)について

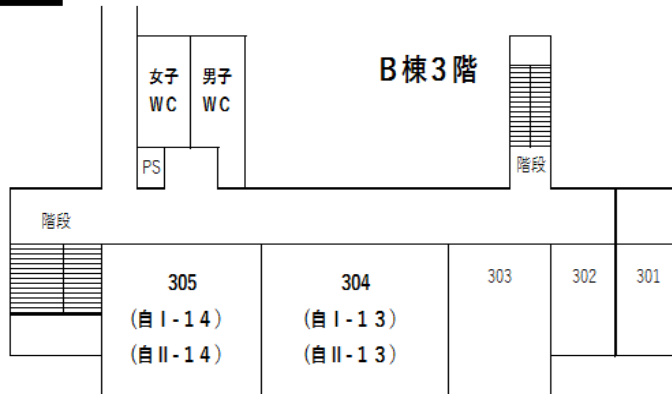
弁当は、事前登録が完了した方のみご用意致します。両日ともに、午前 11 時から大会受付付近にて受け渡し、大会領収書を持参ください。昼食は会員控室や講義室でお召し上がりください。弁当殻は受付付近にて回収致します。また、新潟大学構内にローソンがあります。なお、学内の食堂は、両日とも営業しておりません。

5. 全国研究大会参加時の保育支援制度について

本学会では、全国研究大会参加時の保育費支援制度があります。制度規定および利用申請書は本学会の Web サイト http://socialstudies.jp/ja/about_notice.html よりダウンロードし、本学会事務局に直接お申し込みください。

3階

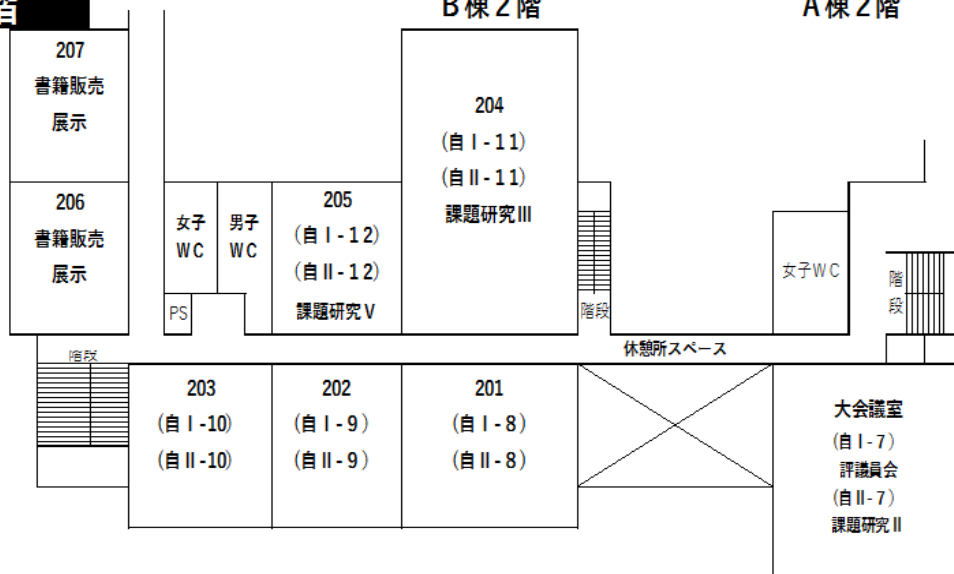
会場図



2階

B棟2階

A棟2階

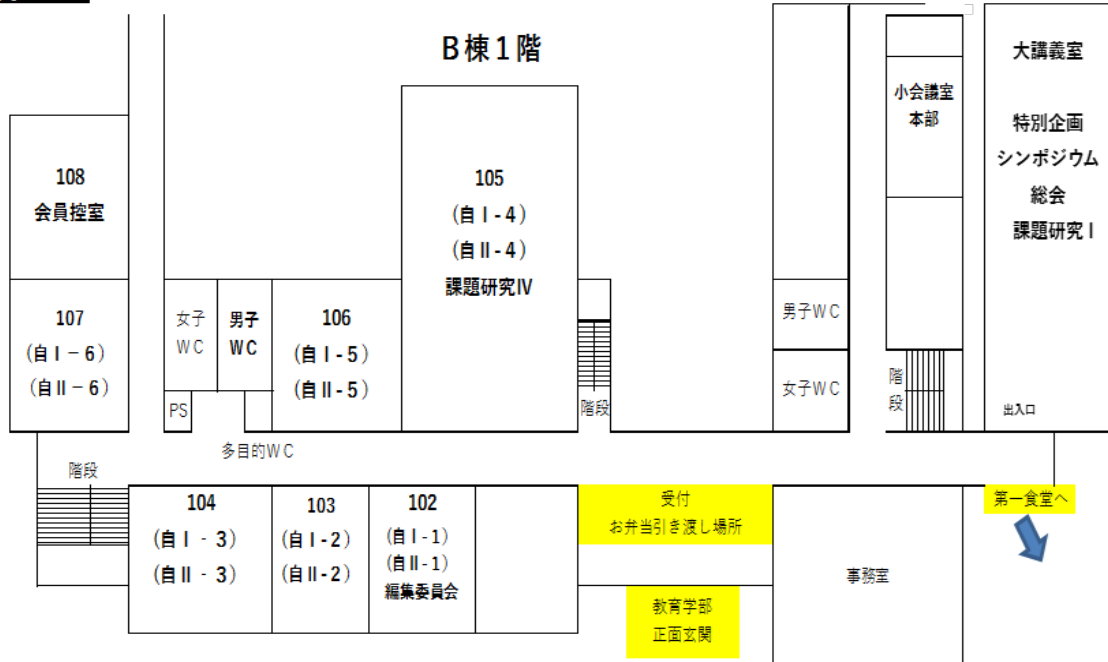


1階

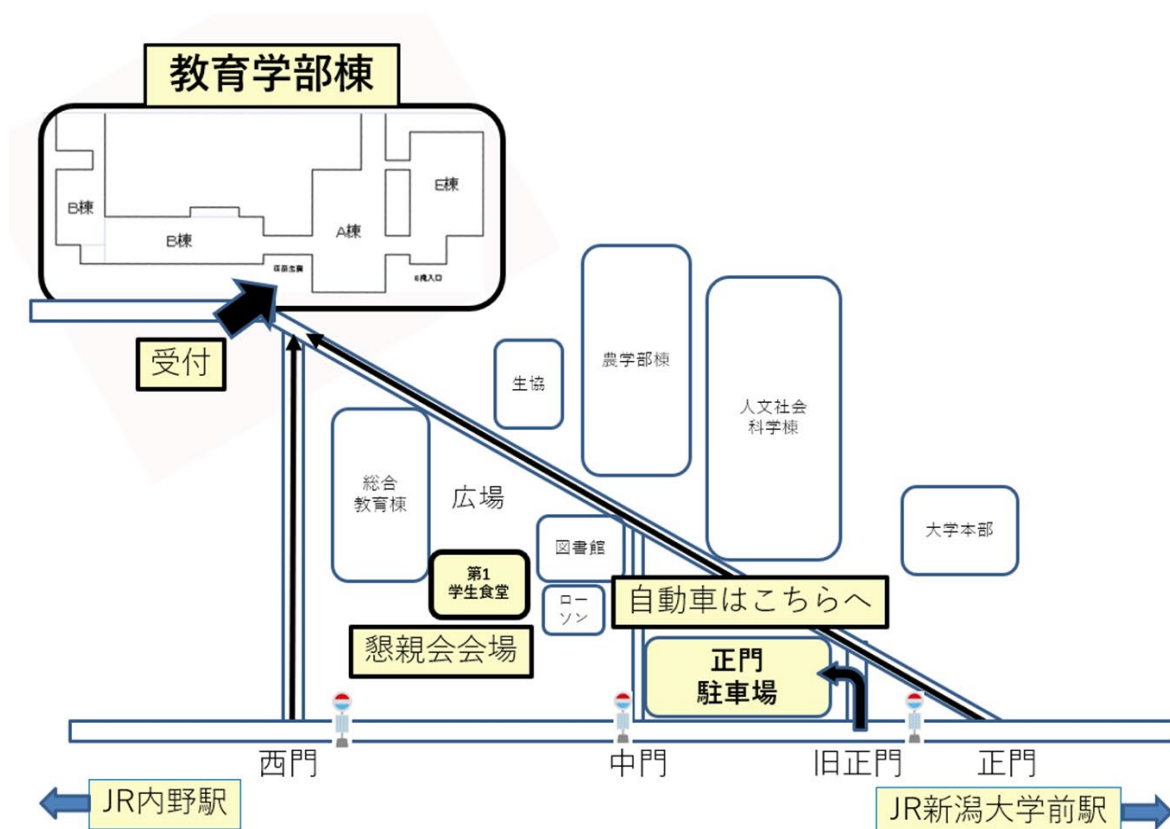
B棟1階

A棟1階

E棟1階



大学構内図



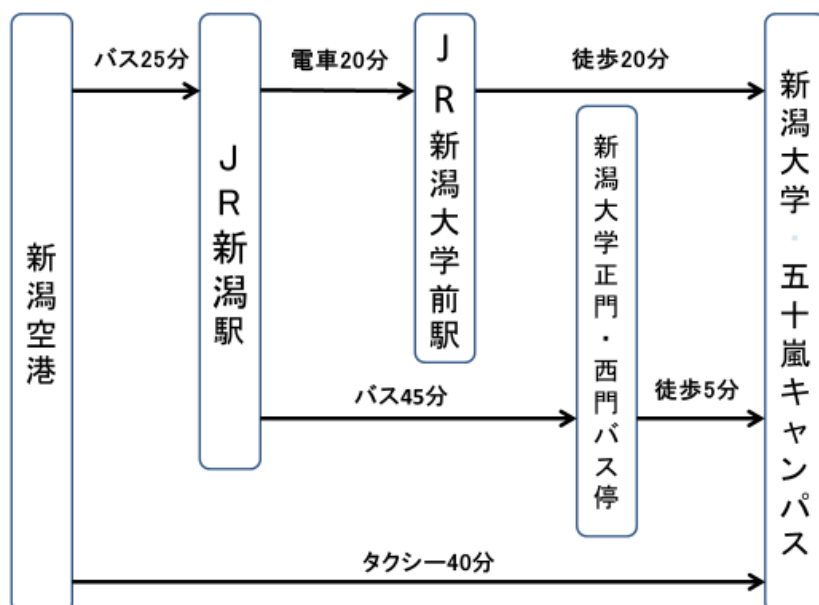
会場（新潟大学教育学部）へのご案内

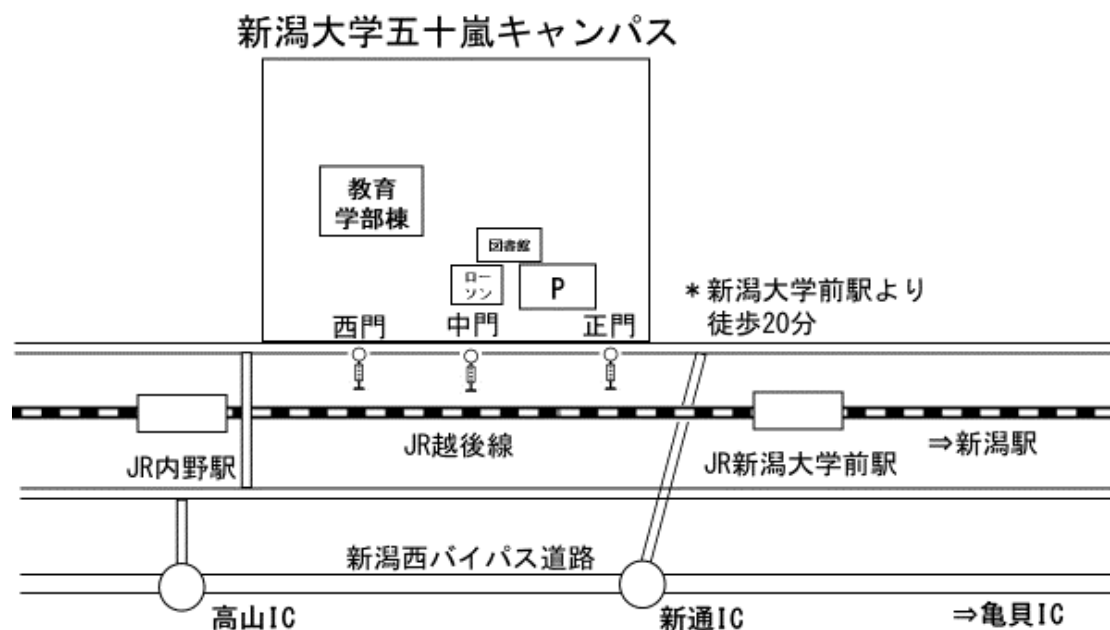
☆JR越後線 新潟駅～新潟大学前駅（19分 240円） 徒歩 20分（タクシー待ち無し）

新潟駅～内野駅（23分 240円） 徒歩 20分 タクシー5分（800円）

☆新潟交通バス（西小針線 新潟大学行） 新潟駅前～新大西門（45分 470円）徒歩 5分

※自家用車は、「旧正門」を入れて左の駐車場をご利用下さい。但し、駐車スペースには限りがあります。





バス・JR 時刻表(新潟大学→新潟駅)

新潟交通 路線バス

新大西門発 → 新潟駅前着

W21 西小針線(土休日)

JR 越後線

新潟大学前駅発 → 新潟駅着

時	分		時	分
8	01 16 31		8	12 24 54
9	10 28 35 53		9	12 33 52
10	03 23 43 53		10	14 35 54
11	12 32 52		11	16 35 54
12	16 32 40		12	16 34 56
13	00 20 30 50		13	16 34 56
14	10 20 30 50		14	14 36 57
15	00 18 32 46 58		15	16 35 55
16	03 13 30 50		16	13 32 56
17	08 15 22 40		17	13 34 51
18	02 17 33		18	14 37 55
19	00 25 45		19	14 36 55
20	05 25 45		20	32 54
21	05 26 48		21	13 34 53
22	13 43		22	13 45 55
			23	15

【メモ】